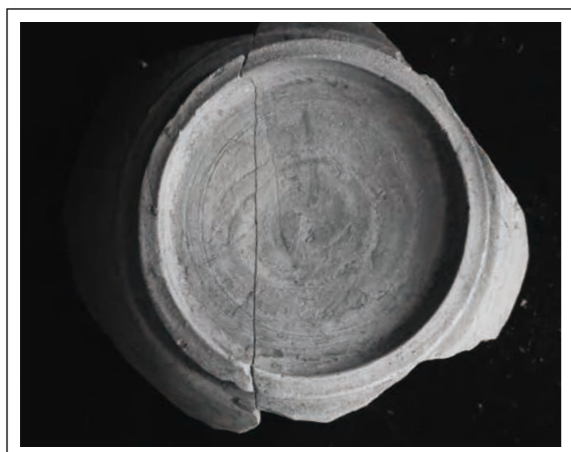




旧石器時代終末期の尖頭器（槍先）



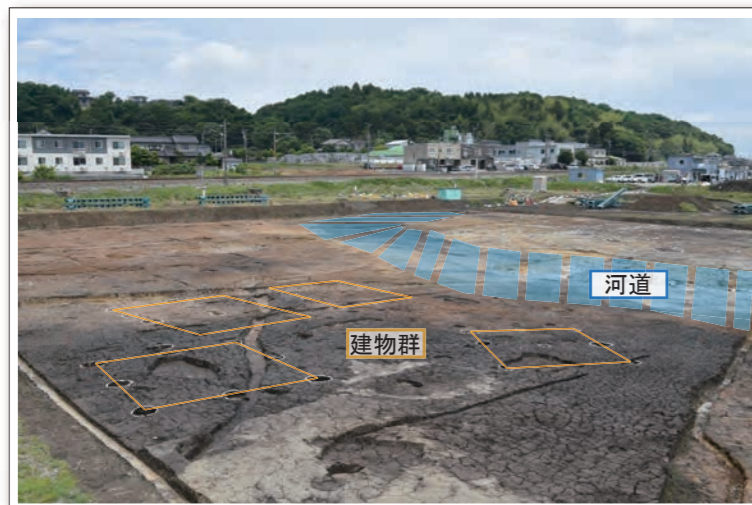
縄文土器を掘り出す



墨で「井」と書かれた土器（奈良時代）



科学分析用の土のサンプルを採取



河道のそばに建つ建物群



<引用・参考文献>

- 大阪府立弥生文化博物館 2009 『平成 21 年度春季特別展 弥生建築—卑弥呼のすまい—』
- 加賀市教育委員会 2002 『加賀市埋蔵文化財報告書 37 大菅波D遺跡』
- 加藤晋平 1989 『日本のあけぼの 1 最古のハンター』 毎日新聞社
- 早川和子 2007 『よみがえる日本の古代』 小学館

| 西暦                  | 時代   | 日本の動き                         | 遺跡のようす                      |
|---------------------|------|-------------------------------|-----------------------------|
| 10000頃              | 旧石器  |                               | 尖頭器（狩りの槍）が出土                |
|                     | 縄文   | 土器の出現<br>貝塚の形成                | 縄文土器や石鏃・黒曜石製の石器が出土          |
| 3000頃<br>B.C<br>A.D | 弥生   | 農耕文化が伝わる<br>金属器の使用<br>邪馬台国の成立 |                             |
| 250頃                | 古墳   | 大型古墳がつくられる<br>須恵器の生産がはじまる     | 後期になると、建物などがみられはじめる         |
| 710                 | 奈良   | 平城京へ遷都                        |                             |
| 794                 | 平安   | 平安京へ遷都                        | 掘立柱建物が川のそばに建てられ、集落が最盛期をむかえる |
| 1192                | 鎌倉   | 鎌倉幕府の成立                       |                             |
| 1338                | 室町   | 室町幕府の成立                       | 溝や土坑から中国産陶磁器や土器などが出土        |
| 1573                | 安土桃山 | 安土幕府の成立                       |                             |
| 1603                | 江戸   | 江戸幕府の成立                       | 井戸をもつ集落域が、丘陵裾に、南側の低地を望んで広がる |
| 1868                | 明治   | 明治維新                          |                             |
|                     | 大正   |                               |                             |
|                     | 昭和   | 第二次世界大戦                       |                             |

# 加賀市 大菅波コショウズワリ遺跡 現地説明会資料

平成 29 年 7 月 23 日（日）  
（公財）石川県埋蔵文化財センター

- 〔調査地〕 加賀市大菅波町地内
- 〔調査原因〕 北陸新幹線建設工事
- 〔委託者〕 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- 〔受託者〕 石川県教育委員会
- 〔調査担当〕 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 〔調査期間〕 第1次 平成28年9月～12月  
第2次 平成29年4月～7月（予定）
- 〔調査面積〕 第1次 1,800㎡  
第2次 3,340㎡（予定）

ホームページ  
いしかわの遺跡 を 検索

〔調査概要〕 遺跡は加賀市北部の江沼盆地北東側に位置します。  
昨年度からの2ヶ年に及び発掘調査により、北側の丘陵から八日市川へと向かって流れていた河道の両岸において、古墳時代後期から室町時代中頃（約 1,500～600 年前）にかけての建物群が確認できました。  
また、江戸時代前半（約 400～250 年前）の井戸群なども検出しており、川とともに生活を営んできたムラの景観や変遷が明らかとなりました。



大菅波コショウズワリ遺跡と周辺の遺跡

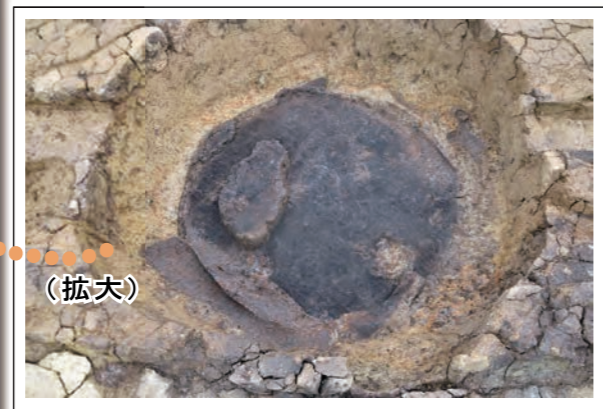


上空から見た遺跡





写真③ 底面に編物が敷かれた土坑  
(江戸時代前半)



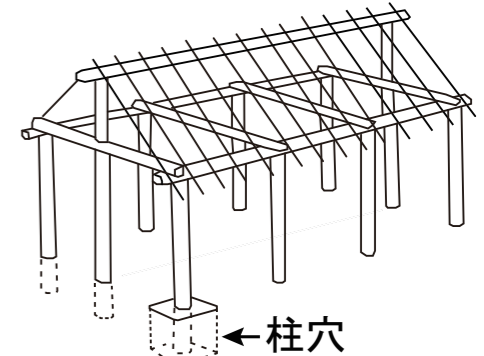
(拡大)



写真② 桶を井戸枠に利用  
(江戸時代前半)



写真① 土師器碗が出土  
(古墳時代後期)



ほったてばしらたてもの  
掘立柱建物の復元図

大阪府立弥生文化博物館『平成21年度春季特別展  
弥生建築—卑弥呼のすまい—』より抜粋・改編



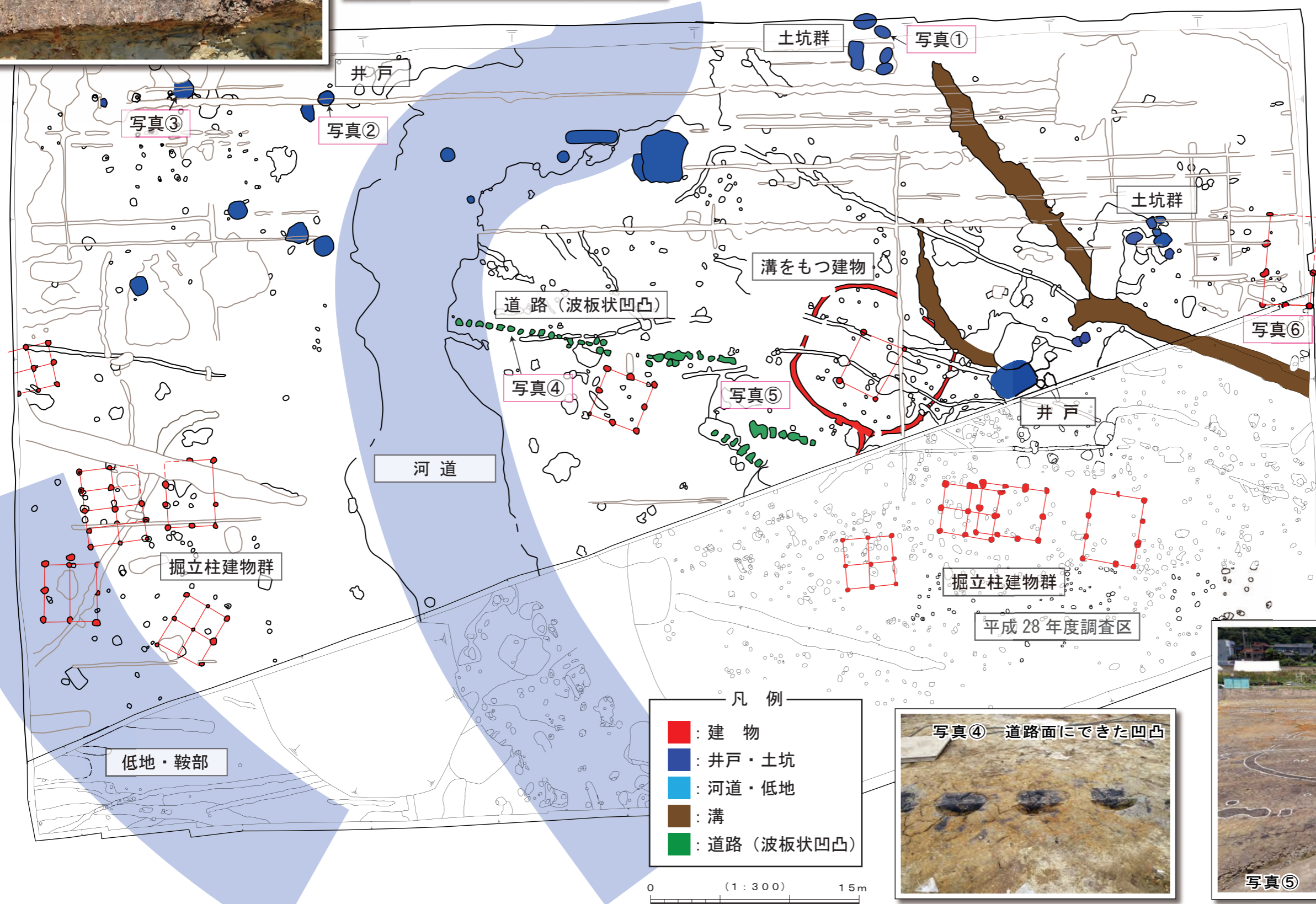
写真⑥ 掘立柱建物調査風景



柱の痕跡が残る柱穴



柱が残る柱穴



写真④ 道路面にできた凹凸



写真⑤ 周りに溝をもつ建物(古墳時代後期)